

1. 概要

(1) 氏名

ふりがな	たかはし こすも	提出日	2022年 9月 15日
氏名	高橋 こすも	報告の 対象期間	2021年 9月 8日～ 2022年 7月 30日

(2) 在籍校の情報(記入日時点)

学校名	学習院大学	学部名	国際社会科学部
ふりがな	がくしゅういんだいがく	学 年	3年
学科 専攻・コース 等	国際社会科学科		

(3) 卒業校

※当てはまるものに「●」

学校名	都立小山台高等学校	課程	●	←全日制	卒業年月 (西暦)	2019年
				←定時制		3 月

以下当てはまるものに「●」を入力

●	←在籍大学の協定・交換留学・学術交流	長期留学
	←在籍大学の研修プログラム	短期研修
	←在籍大学以外の国内機関主催・斡旋の留学プログラム	多様性 キャリア開発
	←その他・特定のプログラムには参加しない。	

以下当てはまるものすべてに「●」

●	←(1)本留学・研修は、在籍大学卒業に必須な留学である(卒業必修要件、必修科目等)
●	←(2)本留学・研修は、在籍大学の単位として認定される留学である
	←(3)上記(1)、(2)のどちらでもない

留学期間	2021年 9月 8日 ~ 2022年 7月 30日
留学国/地域	イギリス/ヨーロッパ

(1) 留学計画のテーマ

日本人はなぜ英語が話せないのか？！

(2) 留学の内容(実践活動を含む)

留学計画の概要

日本人は英語が話せないと言われることがありますが、今回の留学では、日本人が英語を話せないと言われる理由について焦点を当ててリサーチしました。実践内容としては、テーマに関する授業を履修したり、言語イベントに参加したり、アンケートを行いました。

留学前は、教育と国民性の関係についてテーマを設定していました。しかし、テーマが広すぎると考えていた際に、予定していた授業とは別の授業を履修することが出来たことなどから、元々興味があった英語教育にテーマを絞ってリサーチすることに決めました。

留学内容(実際に実施した活動)

1. 授業の履修: 第二言語教育の授業の授業を履修し、第二言語教育についての歴史や理論について学びました。
2. 日本語の授業を開催: 大学のイベントで、第二言語として日本語を学びたい人のためのミニクラスを開催しました。日本語教育になってしまいますが、実際に授業で学んだ理論などを実践的に使用するようにしました。また、隔週で日本語を学ぶ学生向けの漢字クラスの手伝いにも参加して、第二言語教育についての実践練習を行いました。
3. 聞き込み: 量的調査ではなく、質的調査になりますが、留学先で出会った留学生に母国の英語の授業形態や普段の英語の勉強法について聞き込みをしました。

(3) 留学の動機と背景

留学をしようと考えた動機

私が今回の留学を決意したきっかけは、高校時代の短期留学です。高校 2 年生の時に、小山台財団の海外交換派遣に参加させて頂き、イギリスの語学学校に 3 週間留学しました。留学する前は、英語は得意な科目だったので、留学に行ってもある程度は話せるだろうと思っていました。しかし、実際に留学してみて、初めて自分は授業で学ぶ文法や単語などのテスト用の勉強は得意であっても、それは実際にコミュニケーションをとることが出来るということではないのだと気が付きました。他にも、多国から来た留学生は、初日のテストのレベルでクラス分けをされたので、同じような点数だったはずなのに、自分や他の日本人留学生よりもコミュニケーションが取れていることに気が付きました。そこで、日本人は英語が話せないと言われている理由について、興味を持つようになりました。また、自分も将来英語を実際に使えるレベルにするために、大学では 1 年間の留学をしようと決意しました。

しかし、大学選びでは英語で授業が取れる学部を優先していたので、大学では高校時代に疑問を持った英語教育などについて学ぶ機会がありませんでした。今回私が留学した大学では、留学生でも幅広い教科を履修することが出来、そこに興味があった第二言語教育の授業があったことが、今回留学先を UEA に決めた理由です。

(1) 留学の成果

※留学計画に即して留学/研修でどのような成果を得たか。

EF(Education First, 語学学校)の英語力を測る指数 EPI(English Proficiency Index)では、日本人の英語力は 112 か国中 78 位です。日本では現在では小学生から英語を勉強しているのに、このように低い結果となった理由には、市場規模の大きい日本では英語が使えなくても不自由しない、日本に住んでいる外国人人口が 5%以下と低いなど様々な理由が考えられますが、今回は特に以下の点に着目してリサーチを行いました。

1. 言語体系の違い

私の体感ですが、特にラテン語系からきたロマンス語(フランス語、イタリア語など)の言語を話す国から来た留学生の方が、英語を話すことが上手いと感じました。具体的には、話すスピードが速かったり、ためらいを感じない話し方だったと思います。この理由として、英語はゲルマン語系で、ラテン語系とは異なるカテゴリーにいますが、それでも同じ印欧語族から来ていることが挙げられます。また、ノルマン・コンクエストなどを通して、英語とラテン語、特にフランス語などは中世に関りがあったことから、これらの言語は親戚のような近い関係の言語であるということが出来ます。

ここで、英語のネイティブスピーカーが他言語を学ぶのにどのくらい時間がかかるかという研究を参照すると、4つのカテゴリーのうち、カテゴリー1の英語により類似した言語(フランス語、イタリア語など)では 600-750 時間しか仕事で利用できるレベルになるまでにかからないのに対して、日本語が属するカテゴリー4は、英語のネイティブスピーカーにとって習得するのがとても難しい言語(中国語、韓国語など)で、2200 時間かかるとされています。これは、英語と日本語の言語自体が全く異なるので、英語のネイティブスピーカーが日本語を学ぶことがとても難しいということです。これは日本人にとっても、英語を学ぶことが難しいということであるといえます。

2. 国民性

個人差はありますが、日本人は相対的にシャイな人が多いと言われており、間違いを恥ずかしい、完璧な英語で話さなくてはと思っている人が多いと感じました。実際に、私の履修していた授業で留学中に気づいたこととして他国の学生は文化などについて挙げている一方、日本人は英語を完璧に話さなくても伝わるのが大切だと気づいたと皆が発表していました。

また、日本では空気を読むということが大切ですが、英語圏では自分の思っていることをきちんと伝えることが良いとされています。実際に大学の授業でも日本と比べて自分の意見を求められることが多いですし、授業以外の日常生活でも自分の意見を言わないとそもそも意味が伝わらずにコミュニケーションが取れないこともあります。実際に意味が分からなくても相槌をうってしまおうと答えた日本人留学生が多数いました。

3. 授業の方法

・文法訳読法

最も長い歴史を持つ外国語指導法。元々 19-20 世紀のヨーロッパで、ラテン語やギリシャ語などの書物を読むための外国語教育法であるので、コミュニケーション能力よりも、文法や語彙、構造などに焦点を当てています。日本では高校入試や大学入試などで文法や読解の能力が求められる為、それに合わせて学校での英語教育法に多く使用されています。正確さを求める反面、コミュニケーション能力の育成に欠けるという批判もあり、分かるけれども話せないといった日本人の英語の弱点を生み出しているのではないかと考えられます。

現在は少しづつ、実際のコミュニケーションを想定したアクティビティを行うコミュニカティブ・アプローチや、母語を介さないナチュ

ラルアプローチなどを行う授業も増えてきていますが、まだ文法読解法が中心です。

そこで、P(Presentation)、C(Comprehension)、P(Practice)、P(Production)を行う PCPP 教授法が日本の教育に生かせるのではないかと考えました。詳しくは、P(Presentation)提示でその日に学ぶ内容のイントロダクション。生徒に学ぶ内容の重要性を伝えることで、学習のモチベーションを高める。C(Comprehension)理解でリーディングやリスニングなど、意味を正確に理解していく。P(Practice)で学んだ文法や語彙を実際に使用することで、次の Production で必要な基礎を身に着ける。P(Production)産出でコミュニケーション・アプローチのアクティビティを行い、実際のアウトプットを行う。という教授法です。

これは日本の教科書を使用した授業スタイルに汎用しやすいだけでなく、1つの授業で様々なメソッドの利点を取り入れることができ、既存の授業の枠から大きくは外れていないので、教員にも利用しやすいのではないかと考えました。

(2) 自己の成長

※留学/研修を通じて身についた力や留学/研修で得た学びとその理由・背景

1. アカデミックな面では、今回のテーマについて自分なりの答えを持てたことが成長だと思います。上記で記載したように、自分の興味があった分野について、留学で授業や実際に活動したりすることで、理解を深めることが出来ました。
2. その他には、文化の多様性を学ぶことが出来たことが大きいです。自由記述で更に詳しく後述しますが、留学中に出会った沢山の留学生と話をすることで、今まで知らなかった海外の文化や生活、特に食文化などについて知ることが出来ました。また、日本について考えるきっかけにもなったと思います。
3. 更に、英語力を向上させることが出来たと思います。毎日大学での授業や、フラットメイトや友達との会話、今回の留学テーマについてリサーチするときもすべて英語なので、リスニング力が向上したと感じています。また、英語を話すことへの抵抗もなくなりました。実際に、大学で受けた CASEC という英語の試験では、留学前の冬には 719 点でしたが、帰国後の夏には 836 点を取ることが出来ました。CASEC をもとにした TOEIC 換算スコアでは、760 点から 920 点に上がったので、実際の英語のスコアという面でも英語力の向上を感じる事が出来ました。

(3) 留学経験・留学の成果の活用

※留学/研修の成果・経験を将来に渡りどのように活用するか。今後の展望。

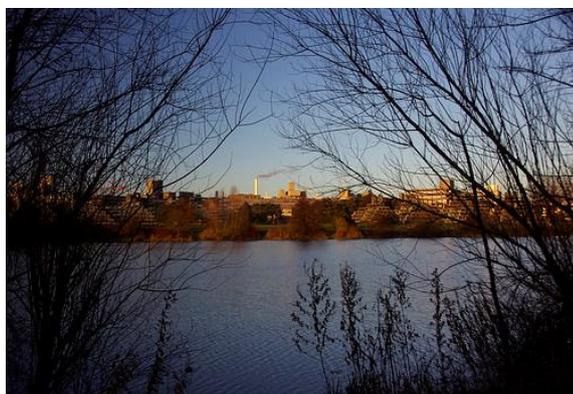
今回のテーマは、日本の英語教育についてでしたが、リサーチでは第二言語教育全般についてや、実践のために日本語を教えるという活動をした結果、第二言語としての日本語教育という分野にも興味を持つようになりました。海外の大学院にも興味を持ったので、第二言語教育について学ぶことが出来る大学院について探してみたいと思います。

また、今回は留学したからこそ出来たような経験に重きをおいて、研究としてはデータ不足なところもあったので、大学のゼミでは統計データを利用した研究を続けてみたいと考えています。

留学を行い、実際に海外に住むという経験をしたことで、将来のキャリアについて考えるきっかけにもなりました。具体的には、今までは漠然と海外で働いてみたいという思いがありましたが、今回実際に長期間海外に住むという経験をすることで、メリットだけでなく、デメリットについても実感して知ることが出来ました。そのお陰で、留学前より具体的に仕事について考えられるようになりました。また、日本では大学3年生から就活を始め、卒業後にそのまま就職をする、新卒一括採用が殆どです。しかし、日本以外からの留学生や教授と話をすることで、今まで自分が考えていた道以外にも、将来には様々な選択肢があるのだと気づくことができました。これらは、私が将来のキャリアを考えていく上での大きな助けになっています。

受入機関の名称
East Anglia University
受入機関の所在地
University of East Anglia, Norwich Research Park, Norwich, Norfolk, NR4 7TJ, UK
受入機関の概要及び特徴
1963年創立。イギリスの研究分野ではトップ20位にランクインしている。ビジネス、法律、経済、メディア、薬学、科学、心理学など多種多様なコースが存在しており、特にクリエイティブ・ライティングのコースには、ノーベル賞作家のカズオ・イシグロが学んでいたことで有名である。卒業生の約95%が卒業後に就職、または大学院に進んでいる。
受入機関の様子
キャンパス内には24時間オープンな図書館、スポーツジム施設、スーパー、カフェ、バー、郵便局など必要なものは全てそろっており、広大な自然を楽しむことができる。イギリスでも安全な都市として有名なNorwich中心部の近くに位置しており、キャンパスからはバスが出ているためアクセスもしやすく、学生満足度では常にイギリス国内でトップ10にランクインしている。留学生も多く、国際的なイベントが開催されたり、クラブやソサエティーの活動も盛んで、活気のある学生生活を過ごすことができる。

受入機関の様子が分かる写真



キャンパスのレイクからの景色。



有名な大学寮 Ziggurats。建築家の Denys Lasdun によってデザインされ、特徴的な形で大学のアイコンになっている。

5. 留学授業・生活について

【公表用】

(1) 授業履歴 (※受講した授業のシラバス等授業内容が分かるもの及び成績表のコピー・提出したレポートを添付すること。)

受講した授業科目名	受講期間	週当たり 時間数	単位数	授業の内容 及び授業から得られたこと
Intercultural Communication in Practice	2021/09-2021/12	2	20UCU	前半は、イギリスに移民として移動してきた方々などのお話をオンラインで伺い、後半は異文化理解について、クラスメイトとのディスカッションを行った。
Intercultural Business Communication	2021/09-2021/12	2	20UCU	文化の違いがどのようにビジネス面に影響を及ぼすのかについて学ぶ。
Advanced English I	2021/09-2021/12	2	20UCU	ノンネイティブスピーカーへの英語の授業。毎週1つのトピックについて学んだ英語を使い、ライティングやスピーキングを行った。
Language, Culture and Interpersonal Communication	2022/01-2022/05	2	20UCU	言語や文化の違いの種類、それらの違いから生じる衝突や良い点などを理論や実践を通して学ぶ。
Understanding Second Language Teaching	2022/01-2022/05	2	20UCU	言語を第二言語学習者に教えるにあたっての理論などを学ぶ。
English Academic Writing Skills	2022/01-2022/05	2	20UCU	英語のアカデミックな文章の書き方を学ぶ。
Advanced English	2022/01-2022/05	2	20UCU	ノンクレジット(単位にならない、オプションとして履修する授業)で履修した授業。ノンネイティブスピーカー向けの英語の授業。

(2) 参加した行事／イベントなど (※パンフレットなど内容が分かる資料があればコピーを添付のこと。)

行事／イベント名	日時	主催者	行事／イベントの内容 及び得られたこと
Welcome Week Event	2021/09/10 ~	UEA	学生生活の過ごし方のコツや、UEA で受けられる様々なサービスについてなどのオリエンテーションを受けることが出来た。特に、UEAでのサポートについて聞くことができ、実際に留学中に役に立った。

Study Abroad Destination Fair	2021/10/20	Visiting UEA	UEA に留学中の留学生が、自身の大学や国について説明したり、質問に答えたり、アピールしたりすることで、UEA の学生に更に留学に興味を持ってもらうためのイベント。私は、日本からの留学生としてイベントにボランティアとして参加し、日本に興味のある学生への説明や質疑応答を行った。
Blackpool Competition	2022/2/25-2/27	University Dance Sports	社交ダンスの大会。歴史のある大会とあって、イギリス中の大学からの参加者がおり、スコットランド代表のカップルの踊りを見ることができた。イギリスの競技ダンスへの歴史を感じることが出来たイベントだった。写真は留学中の様子を記載。
Love Language Day	2022/3/25	UEA	UEA が主催する、言語や文化を学ぶイベントが開催される日。私は、日本の文化では書道、言語では日本語のワークショップを開催し、授業ではプレゼンをするなど、留学のテーマとも関連する語学のイベントに積極的に参加することで、とても充実した一日を過ごすことが出来た。写真は自由記述に記載。
Japanese “KANJI” class	隔週	Japanese school teacher	UEA にある日本語を学んでいる日本語学科の学生へ向けて、日本からの留学生が日本語を教えるというイベント。普段当たり前で使用している日本語について、人に教えるにあたって改めて考えるきっかけになった。実際の写真は自由記述に記載。

(3) 留学で得られた学位や資格等 (※証明書などがあればコピーを添付のこと。)

特になし。

(4) 現地での生活

【公表用】

※宿泊先での生活や特に注意したこと

留学先の Norwich はイギリスの中では安全な都市として有名でしたが、それでも貴重品は目の見える場所で持つようにするなど、最低限、安全には気を付けて生活するようにしていました。

私は大学の寮に住んでおり、8人でキッチンシェアしていたので、難しい面もありましたが、手洗いうがいなどの最低限の健康にも気を付けるようにしていました。イギリスは乾燥しているので、何度か風邪にかかったことはありましたが、おかげでコロナなど大きな病気にはかかることなく1年間を過ごすことが出来ました。

生活一般では、1年しかない留学生生活をより充実させるために、自分から様々なイベントに参加したり、アクションを取るよう心がけていました。

6. 留学を考えている人へのメッセージ

留学をしてよかったこと、留学前にやっておけばよかったこと、留学を勧める理由/進めない理由など

留学をしてよかったこと

留学をしてよかったと思う1番の理由は、留学していなければ出会えない人々に出会えたことにあります。現地のイギリス人学生は勿論、コロナ禍ではありましたが、それでも様々な国からの留学生が UEA に留学しており、日本にいたままでは出会うことが出来なかったであろう、様々な人々に出会うことが出来ました。自分とは異なるバックグラウンドを持つ人たちと話すことで、自分の今までの固定概念に気づくことができ、視野を広げるきっかけにもなりました。留学を終えても連絡を取り合い、また会いに行きたいと思える友達が出来たことは、一生の宝物だと思います。

留学前にやっておけばよかったこと

留学をした方がみんな仰っていると思いますが、留学前の英語の勉強をもっとしておけばよかったと思います。私の場合は、コロナもあり、留学に行くことが出来るかがギリギリまで分からない状況で、モチベーションを保つことが難しく、準備不足であったということがありますが、やはりそれでも今後留学を考えている方には、日本で出来る英語の勉強はできるだけしてほしいと思います。留学先で英語を使うことで、英語力を高めることは可能ですが、もっと英語が話せればなと思う場面が何度もあったので、英語力が高いに越したことはないと思います。

留学を進める理由

私は、留学に少しでも興味のある人には、ぜひ留学をしてもらいたいと思っています。留学をすることで得られることが必ずありますし、将来のためにもぜひチャレンジするべきだと思います。金銭面で悩んでいる人も、協定留学を利用したり、返済不要の奨学金など様々な方法で留学することが出来るので、諦めずにチャレンジしてほしいです。

7. 留学中の様子が分かる写真

【公表用】

写真	説明
	<p>Club 活動</p> <p>この写真は私の所属する、Ballroom and Latin Dance Club で Blackpool のダンス大会に参加した時の写真です。Blackpool は競技ダンスの国際的な大会が多く開催される場所で、私たちもその1つの Winter Garden という会場で踊ることが出来ました。シャンデリアなどの綺麗な、国際的な歴史のある場所で踊ることが出来てとても感動したことを覚えています。また、翌日には他の会場の Blackpool tower でソーシャルダンスをしました。今までの大会とは異なり、2泊3日と泊りの大会だったので、メンバーとの仲も深まったように思います。</p>



授業

授業のグループワークの中でも、特に Language, culture and interpersonal communication の授業で行ったプレゼンテーションが印象に残っています。大学の student union の hive という建物の一角で、与えられたスペースで道行く学生にそれぞれの選んだテーマについて発表しました。初めて会う人に説明することは難しかったですが、良い経験になりました。この写真は、グループメンバーと撮った写真です。グループワークを通して、親しくなることが出来ました。



友達

この写真に写っている子は、フラットで最初に仲良くなったフランス人の女の子です。お互い交換留学生ということもあり、すぐに仲良くなれました。彼女は半期の留学だったので、お別れするときは二人とも泣いてしまいましたが、日本に帰る前に会いに行き、彼女の実家に1週間ほど泊らせてもらいました。日本とフランスの違いや似ているところなど、様々なことを話せて、とても楽しかったです。



最後の授業

この先生はノンネイティブスピーカー向けの英語の授業を担当しているので、私は留学中一年間授業を履修して、大変お世話になった先生です。英語の上達にももちろん、同じ留学なので、友達を作るにもとても良い環境でした。実際にこの授業を通して仲良くなった友達も沢山います。

8. 留学に関連した費用

【公表用】

費用調達

調達先	摘要	金額
在籍校奨学金	国際センター、国際社会科学部海外留学奨学金	220,000 円
在籍校以外の奨学金	Jasso 海外留学奨学金	640,000 円
現地アルバイト給与	レストランでのアルバイト	70,000 円
		円
		円
		円
合計		930,000 円

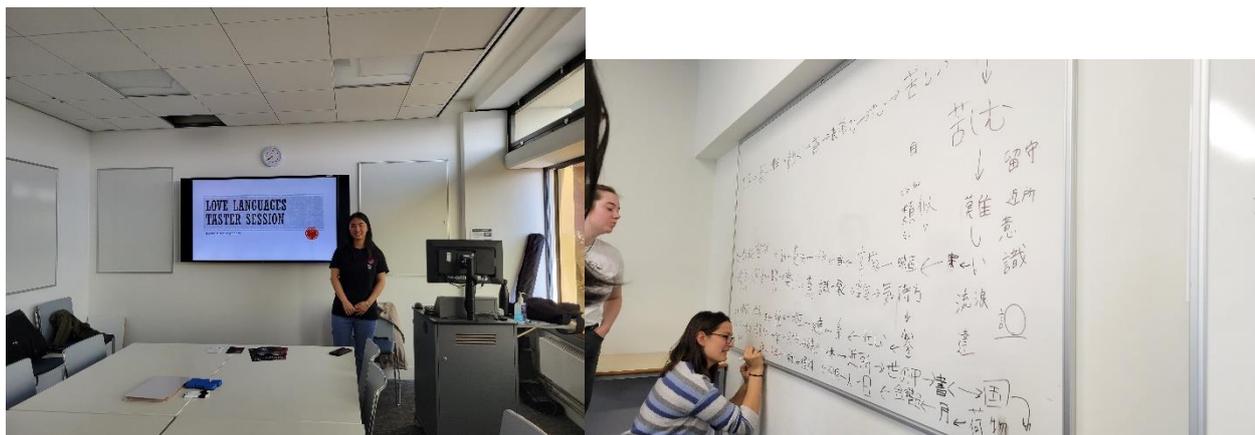
支出経費

費目	予算額	実績	研修参加費に含まれる 場合は、●を付ける	摘要	
「研修参加費」 ※在籍大学・主催者に一 括で支払うもの	円		←往復航空運賃		
			←宿泊費		
			←食費		
			←その他		
以下の欄には、上記「研修参加費」に含まれる予算額は記載しない。(二重)					
費目	予算	実績	摘要／差異の内容		
往復航空運賃	200,000 円	180,000 円			
学 費	在籍大学授業料	1,250,000 円	1,250,000 円		
	現地学校等授業料	0 円	0 円	協定留学のため	
	その他	円	円		
現 地 滞 在 費	家賃/宿泊費	1,017,000 円	1,017,000 円		
	食費	250,000 円	200,000 円		
	交通費	円	60,000 円	大学から街へのバス代など	
	保険	120,000 円	110,000 円		
	円	円			
そ の 他	陰性証明書	40,000 円	40,000 円		
		円	円		
		円	円		
合計	2,877,000 円	2,907,000 円	現地通貨レ ート	165円で計算	
			通貨単位名	ポンド、£	

※合計欄には「研修参加費」を含む費用の総額を記入のこと。

① 留学のテーマに関する報告

実践活動について

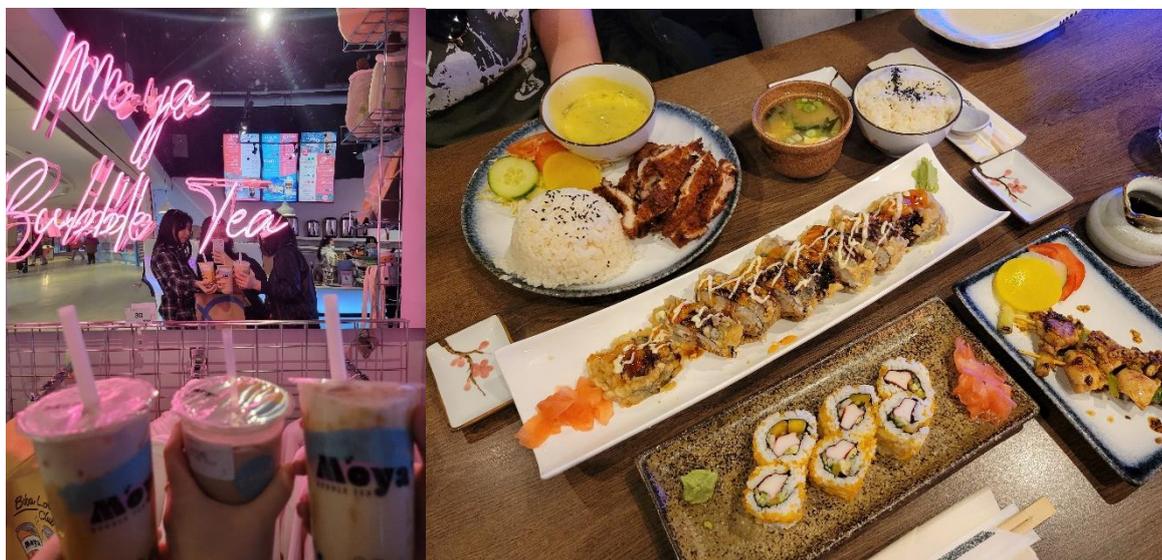


今回英語教育を調べていくうちに、第二言語教育について興味を持つようになり、実際に母語である日本語を教えるという経験をしてきました。普段何気なく使っている日本語ですが、学生からの質問で意識していなかったことを考えさせられたり、効率的に学んでもらうにはどうしたらよいかを考え、授業での内容を取り入れながら試行錯誤しました。教科書に載っている文ではなく、実際に利用しやすいように変更したり、アクティビティを考えたりしました。

② 留学で成長出来たこと

異文化への理解





UEAにはいろいろな国からの留学生がいたので、普段日本には知ることの出来なかった海外の文化について学ぶことが出来ました。特に、仲良くなった留学生とはお互いに自分の国の料理を作って披露したり、その国のレストランに行って食事をするなど、食文化について沢山学べました。留学生と話すことで、自分が今まで日本についての知識が少なかったのだと気づくことが出来、日本文化への関心にもつながりました。

英語力



私は留学中 Ballroom and Latin dance club というクラブに所属していました。学習院ではコロナで部活動やサークル活動が出来なかったのが、初めての経験でした。まさか初めての大会をイギリスで参加することになるとは思っていませんでしたが、とても貴重な体験をすることが出来ました。日本人はおろか、アジア人すらいなかったのが、心細い点もありましたが、英語を話さなくてはならない環境に置かれることで、英語を話すことに対する抵抗が減ったと思います。パートナーとはダンスのルーティンや練習など話さなくてはならないことが沢山あるので、強制的に話さなくてはならない環境に身を置くことが出来、完璧な英語ではなくても、伝わればいいんだと気軽に考えられるようになりました。実際に大会に向けて一緒に場所を借りて練習したり、衣装の相談をしたり、緊張をほぐし合ったり、日本にいたときには考えられなかった素敵な経験を通して、英語を話すことで、できることが増え、こんなにも世界が広がるのだと実感しました。

友達



留学で私が一番素晴らしかったと思うことは、世界中に友達を作ることが出来たことです。留学が終わっても、友達の国を訪れてもう一度会うことが出来たり、日本で再開することが出来たりしました。左の写真は、フラットメイトのエミーの実家を訪れたときの写真で、右の写真は、UEA で留学中に会った友達が留学で日本に来た時にとった写真です。特に日本に留学中の友人とは隔週くらいのペースで会うことが出来ていて、日本に帰国しても続く関係性を築くことができ、とても嬉しいです。他にも、中々留学中のように会うことが出来ない友達もありますが、それでも将来も大切にしていきたいと思える友人と出会えたことは、かけがえのないことだと感じています。留学していなければ会うことが出来なかった友達に出会えたことは、お金などでも買うことの出来ない、唯一無二の経験だったと思います。